

五の池 小屋だより

同じ生き物

先日、濁河のスキー場に行った朝、ちょっと珍しいことがあった。雪の降った朝、真っ白なゲレンデに二つの黒い点がけっこう速いスピードで動いているのが見えた。それらはゲレンデの高いところから、だんだんとこちらの方に向かって近づいてくる。

よく見ると片方はウサギ、そしてもう片方はテンである。そう、テンが獲物であるウサギを捕らえようと林の中からウサギを追っかけてきたのである。しかし結果、テンは人間が周囲にいることに気づき、足を止め、ウサギを捕ることは出来なかった。

それは一瞬の出来事で、この山に住む生き物たちの生と死の厳しい世界の実態であった。

ここでは日常的にこのようなことが起きている。きっとあの2匹にしてみれば僕も同じ動物なのだろう。ふと、そう思った。

山にひとたび足を踏み入れれば、人間もまたこの御嶽に棲（す）む生き物と同じように自然の脅威にさらされる。そう思うと動物も人間も同じじゃないかと思えてくるのだ。よく都心から観光客が訪れ、山道のガードレール上に座るサルの群れを、珍しそうにカメラで撮っている光景を目にする。でもなぜか僕はその光景を見て、少し笑ってしまう。今日みたいな日は特に…。

(写真・文市川典司)